

[100] 語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10166>

出版情報：語文研究. 100/101, 2006-06-02. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

目次

迫野虔徳教授略歴

迫野虔徳教授著作目録

中古仮名文における漢文訓読語「ことし」の意味用法について	森脇茂秀	1
中世後期における「コソアレ」形式 現在方言との関連から	矢毛達之	15
「おなじぬれ」・「いとぎなき手」補考 『蜻蛉日記』の本文批判	今西祐一郎	27
「女三の宮の幼さ」について 若菜上巻の読みの試み	伊佐山潤子	38
左馬頭の指 『源氏物語』帚木巻の別れ話の裏側	坂本信道	50
村雨の軒端 『去来抄』と『源氏物語』	田村隆	60
「頭中将の御小舎人童」考その他 『堤中納言物語』の本文批判	後藤康文	67
中世王朝物語における「不義の子」の処遇	宮崎裕子	76
『在明の別』を手掛かりとして		
『ささやき竹』考 西光坊とその周辺	安川多映	94

「正しい言葉」と「きたない言葉」	園田 豊	105
川村 湊氏「黄表紙王国の崩壊」(近世狂言綺言列伝所収)を一読して		
唱歌と童謡 新たな童謡史のために	國生 雅子	110
江藤淳と 転向 論の帰趨	山崎 正純	124
沖繩戦と きれいな標準語 目取真俊「水滴」への視角	松下 博文	137
談話資料からみた福岡方言のアスペクトの実態	二階堂 整	162 (一五)
『隣語大方』の諸本間関係再考	申 忠均	174 (一四)
句接辞「ーがち」の史的展開	内 富 純	188 (一三)
象徴詞の「と」脱落についての通時的考察	川 瀬 卓	202 (一六)
音節構造と字余り論	高 山 倫 明	217 (一)
会員著書紹介		218
学会彙報		226
総目次		235